

東日本大震災後に大学生のボランティア活動希望者が急増しています。このため、文部科学省では各大学に対して、このようなボランティア活動を大学の単位として認定することを求めるようになりました。八王子にある東京工科大学 (<http://www.teu.ac.jp/>) では、夏休み期間中に1週間のボランティア活動を行なうと、大学の1単位「ボランティア実習」になるという制度が、以前からありました。しかし、学生が自分で安心したボランティア先を見つけることは難しく、単位取得する学生は少なかったのです。

NPO法人地域自立ソフトウェア連携機構(MSCO)の事務局長が、同大学で「ボランティアの理論と実践」という講座を担当(現在は「行政メディア論」)していた関係で、NPO法人MSCOが「佐渡島におけるトキ野生復帰のボランティア活動」を企画して参加学生を募集したところ、2007年5名、2008年21名、2009年95名、2010年45名、2011年45名という延べ200名を超える学生が参加がありました。前年参加者は単位取得に関係ないのですが、連続しての参加者も多いのです。

佐渡における作業内容の企画や指導は「トキの野生復帰連絡協議会」(トキ連)が行なっていましたが、突然、2010年3月に解散になりました。このため2010年からは佐渡の実習を中止して、他の場所を探し始めたのですが、新穂、上横山、岩首などの地区から「是非、今年も来て欲しい」という要望があったため、2010年からはすべての企画をNPO法人MSCOが行うことで継続して実施することにしました。トキ連とは異なり、佐渡常駐の職員がいないために、参加人数を制限しての実施になりました。

2011年の夏は、1期(1週間)の参加学生を10名程度(フェリーの学割が適用されず一般料金での参加になりますが・・・)に絞り、4期にわたって作業を行いました。3月には初めて冬の第5期の学生を数名程度募集する予定です。

トキ連が解散してしまったために、昨年からの活動地域は、新穂(潟上水辺の会、佐渡トキの田んぼを守る会)・上横山(上横山の自然公園を作る会)・岩首(岩首談義所)・豊岡と限られています。どの地域からも大学生を歓迎していただいて学生は大変満足して東京に帰っていて、驚くことに、佐渡で就職したいという学生まで現れています。

大学がない佐渡では、大学生の力を必要とする地域が多くあると思われます。2007年の最初の活動から継続して整備を行っていた交流会館前のビオトープの作業が出来なくなったために、今年は佐渡シルバー人材センターの提案で臼が滝のビオトープの再整備を行いました。この地域はトキのヒナ誕生の候補地としても期待できそうなので、来年度以降も引き続き重点整備を行いたい場所です。ただ、台風の影響などで水源近くの木が倒れていて、学生の力では回復できない状態なので、是非佐渡市で水路の確保作業を行って欲しいと思います。同じようにヒナの誕生が期待できそうな生椿地区での作業も可能かどうかは学生と一緒に下見を行うなど、来年以降の作業地域拡大の準備を始めています。本日参加の皆さんの地域でも、何かの作業が可能であれば、遠慮なく声をかけてください。

八王子だけでも23の大学があり、他の大学や企業のCSR活動としても、当NPO法人の佐渡での実習プログラムが注目されるようになっていきますので、NPO法人MSCOでは「佐渡トキ検定〜トキと共生する島づくり検定〜」(日本財団助成事業)を実施し、その合格者だけを佐渡に連れて行くという計画になっています。NPO法人MSCOでは、今年は新潟県から「トキをプロデュース野生復帰推進事業啓発セミナー業務」の委託を受けています。東京工科大学のプログラムのような活動を他の大学や企業に提案が可能ですので、希望される方は事務局 (masami@msco.jp) 03-3268-1525)までご連絡ください。なお、東京工科大学の佐渡での実習プログラムは、次のサイトでご覧になれます。 <http://teu-sado.d2.r-cms.jp/>